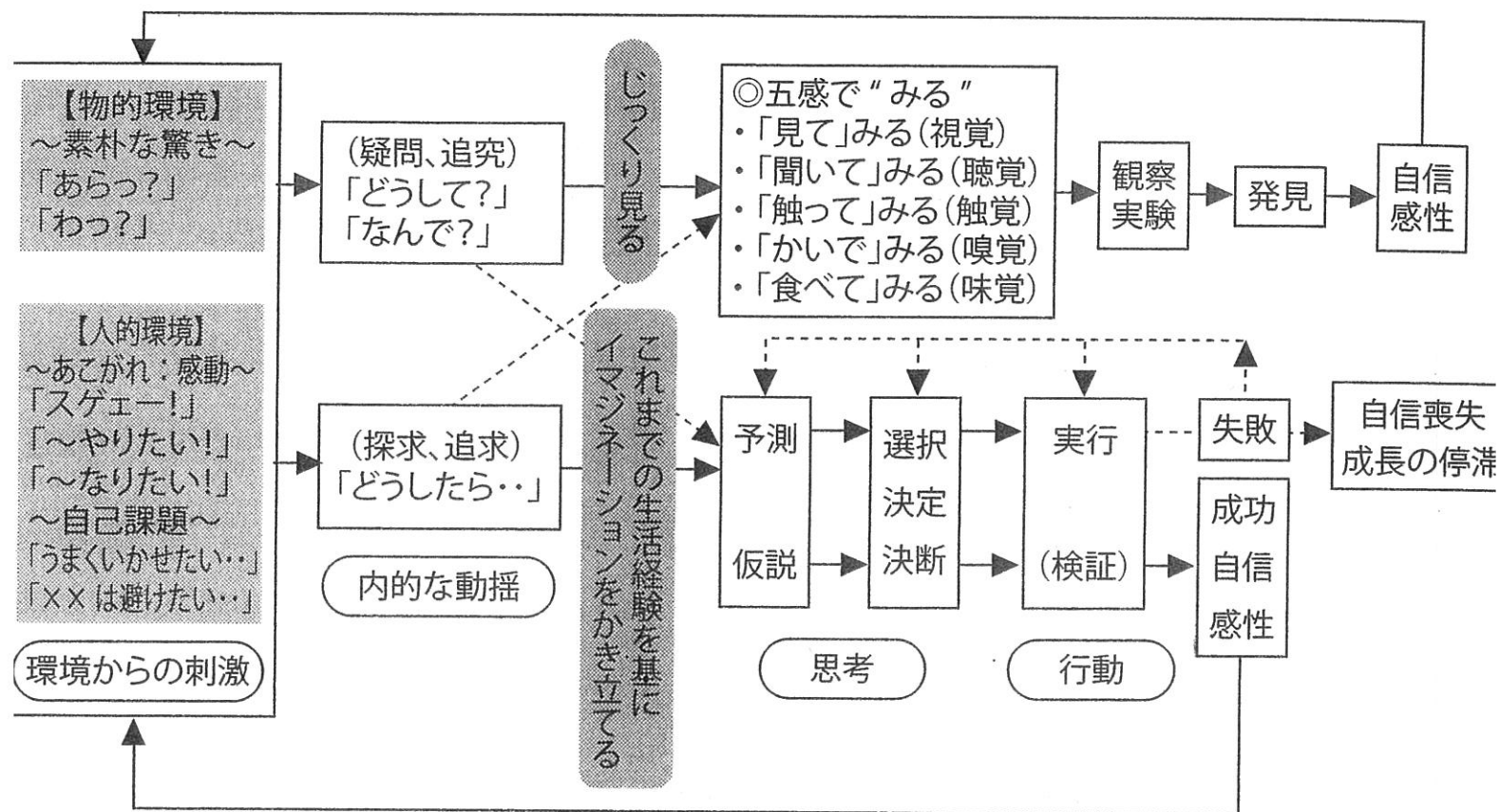


図◆ 幼児期の学びの循環過程



(出所：〔奥田・嶋崎・足立、2006〕)

きる。「これ…、なんだ?」といった“素朴な驚き”は物的環境からの刺激である場合が多く、「〇〇ちゃんのようにになりたい…」といった“あこがれ”、「今度はうまくやりたい」といった“自己課題”等は人的環境からの刺激である場合が多い。子どもがこれらの環境刺激に出会い、心が揺れ動くことをきっかけとして探求や追求が始まる。物的環境からの刺激は、五感力を総動員して観察や実験を行い、それが新たな発見を生み出し、感性の育ちにもつながっていくだろう。また、人的環境からの刺激は、これまでの生活経験を土台にして、どうすれば自分の願いがか